

■上村松園 日本画家。幼時から注目され、美人画によって確立、内外の王室、政府の買上が続き、女性初の文化勲章。

うえむらしょうえん

初の民間工場1875= 京都四条通りの葉茶屋ちきり屋の次女として生まれる。父は誕生の直前に亡くなる。

画才を見抜いた母の手で育てられ、

明治14年政変1881= 6歳:

その才能は早くから店に立ち寄る文人墨客の間で話題になる。

秩父事件・・・1884= 9歳:

国民之友始・1887=12歳: 開智小学校を退学して、京都府画学校に入学。鈴木松年に師事。

初の対等条約1888=13歳: 松年の辞任に伴い退学して、正式に入塾。

帝国憲法発布1889=14歳:

帝国議会始・1890=15歳: \*第3回内国勲業博覧会に「四季美人」を出品して1等。来日中の英国皇子買い上げとなって、画名を高め、足尾鉞毒始・1891=16歳: 「美人観月」。日本美術協会展で「和美人」が1等。

大本教・・・1892=17歳: 「美人納涼」。

郡司千島探検1893=18歳: 幸野樸嶺に師事。「美人弾吹」。隣家の失火で松園宅全焼。シカゴ博で「四季美人」が2等。

日清戦争始・1894=19歳: 日本美術協会展で「美人巻簾」が2等。

日清戦争終・1895=20歳: 幸野樸嶺が亡くなり、竹内栖鳳に師事。「清女\*簾之図」「義貞聴琴図」。

白馬会・・・1896=21歳: 日本美術協会展で「婦人愛児」が1等。

八幡製鉄始・1897=22歳: 「今様美人」「春暖催眠」。「一家楽居図」が宮内省買い上げ。「寿陽公主梅花粧」。

子規句歌革新1898=23歳: 「重衡朗吟図」「古代上臈図」「美人」。

Bushidou・・・1899=24歳: 「人生の花」「美人図」「雪中美人」「孟母断機」。

ピアノ国産化・1900=25歳: 「軽女悲離別図」。パリ万博に「母子図」。院展で「花ざかり」が2等を受賞、東京に知られる。

田中正造直訴1901=26歳: 「雪中竹」「背面美人」「桜実」。

教科書疑獄・1902=27歳: 「時雨」。長男松暁誕生。

日比谷公園・1903=28歳: 「姉妹図」。\*家業の葉茶屋を廃し、画家として独立。

日露戦争始・1904=29歳: 「遊女亀遊」出品中落書きされるも、そのまま展示。「春の粧」。

日露戦争終・1905=30歳:

韓国反日暴動1907=32歳: 「むしの音」。第1回文展に「長夜」を出品して評判となる。

アヲキ創刊・1908=33歳: 「秋の夜」「月影」。

伊藤博文暗殺1909=34歳: 「柳桜」。「松園美人画譜」出版。ローマ万博で「花の眠い」が金大賞。

韓国併合・・・1910=35歳: 異画開審査員となる。「花」「人形つかい」「上苑賞秋」。

大逆事件判決1911=36歳:

その芸術を支え開花させたのは美人で働き者の母であった。

大正政変・・・1913=38歳: 「蛭」。

第一次大戦始1914=39歳: 「娘深雪」「舞仕度」。この年終生を過すことになる地へ転居。謡曲を習い始める。

21ヶ条要求・1915=40歳: この年まで、2, 3等の受賞を重ねた。以後は無監査出品となる。狂女もの「花がたみ」に始まる女性心理をとりあつかった作品は、

民本主義・・・1916=41歳: 「月蝕の宵」。

本格政党内閣1918=43歳: 鈴木松年没。\*女の嫉妬を描いた「焰」において頂点に達する。

大暴落・・・1920=45歳:

原敬首相暗殺1921=46歳: 長尾雨山に漢学と漢詩を学ぶ。

漢詩、漢文を学び教養を深めるとともに、能楽に日本美の真髄を認めて画作に取り入れて行く。初期の作品は浮世絵の影響が強かったが、男性に伍して写生旅行に耐え、古典を吸収すべく大量の縮図を手がけた。

円本時代始・1926=51歳: 「娘」「春」「待月」。

金融恐慌・・・1927=52歳: 母病床に就く。長男結婚。

世界恐慌・・・1929=54歳:

海軍軍縮条約1930=55歳: ローマ日本美術展に「伊勢大輔」「新蛭」を出品。宮家お興入れ調度品として「春秋」の屏風。

満州事変・・・1931=56歳: ベルリン日本美術展に「虫干」を出品して、ドイツに寄贈。

五一五事件・1932=57歳: 岩崎家の依頼で「虹をみる」の屏風を制作。

帝人疑獄事件1934=59歳: 母が没する。「青眉」。帝展に「母子」を出品、政府買い上げとなる。

芥川直木賞始1935=60歳: 「天保歌伎」「鴛鴦齧」。

二二六事件・1936=61歳: 「序の舞」政府買い上げ。

日中戦争始・1937=62歳: 皇太后ご用命「雪月花」。政府買い上げの「草紙洗小町」や、

健保+総動員 1938=63歳: 「砧」に発展する。その背後には必ず母への思慕がある。

日米開戦・・・1941=66歳: 「夕暮」。芸術院会員に任命される。

・・・1942=67歳: 師の竹内栖鳳が死去。

創価学会検挙1943=68歳: 「晴日」。随筆集「青眉抄」出版。「晩秋」で、働く日本女性の典型・母への思慕を絵画的に豊かなものにし、

年金+総武装 1944=69歳: 帝室技芸員となる。

敗戦・・・1945=70歳:

新憲法施行・1947=72歳:

極東裁判判決・1948=73歳: \*女性として最初の文化勲章を受けて、

三大事件・・・1949=74歳: 没した。  
絶筆「初夏の夕」。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、新潮日本美術文庫、「目でみる日本人物百科」、「私たちの20世紀・100人」、「日本の女性」、